みしま市民新聞
編集人　堀　考信
三島市徳倉813−3
サンヴェール三島506号
TEL&FAX　055-988-1926
Mail:wsigdx@mail.goo.ne.jp
URL: http://msmcit.ddo.jp/yh/
発行部数：１５００部

日本のリーダーに直結する民主党代表選

菅vs小沢、まともな政策はどっちだ？

いよいよ民主党の代表選が始まった。この選挙は民主党の代表を選ぶものだが、同時に日本のリーダー＝首相が決まるものとなる。昨年9月、政権交代した民主党だが菅政権の登場で政策をめぐる深刻な対立となり、今後の日本の進路を決する大決戦となった。

もともと民主党は政策や手法の異なる政治家が離合集散を繰り返し成り立っている雑多な組織で、理念や方針が統一されている訳ではない。とはいえ、今回の代表選をめぐる闘いでは、菅首相、小沢元幹事長、どちらがまともな政策を掲げているかが注目される。

主な政策課題は、対米姿勢、経済対策、財源問題、対官僚姿勢などだ。対米姿勢では、菅氏は首相就任早々、普天間基地問題で、自民党時代の「日米合意」受け入れに同意し、対米従属を表明した。

小沢氏は、沖縄の現状を考えると普天間移転は再検討の必要があるとの姿勢で「日米対等」の立場を主張。

代表選に向け握手する菅・小沢氏

経済政策では、菅氏が財政再建に力点が置かれ、財政の建て直しで消費税の増税を考えている様子が伺える。

また、企業の国際競争力をつけるため、企業減税を言い、膨らんだ財政赤字の解消を急がなければギリシャの二の舞になるとの主張だ。その一方で雇用の拡大を図り、社会保障の充実を訴えている。

一方、小沢氏は、政権交代当初の、マニフェストの原点に戻り「国民の生活が第一」の立場から、子供手当てや農家の所得保障継続を訴える。財源は、更なる無駄を省き、今まで隠されていた特別会計を徹底的に見直し、財源確保を目指すとしている。

官僚に対する姿勢では、菅氏は以前の姿勢から一転し、官僚との協調、官僚主導の政策推進に戻っている。小沢氏は官僚の天下り前面禁止、元のマニフェストに戻った「政治主導」の確立を訴えている。

総合的に考えると、菅氏の政策は自民党時代に戻った姿勢が目立ち、財政再建が最優先、企業減税、消費税増税等、それらは新自由主義路線に近いものといえる。

小沢氏は国民生活路線であり、現下の不況、デフレ状況に対し、さまざまな財政出動による、国内需要の掘り起こしや雇用の回復を目指す。当面、景気回復を図らないと財政の建て直しには手がつけられないとの姿勢だ。

主張

官房機密費とマスコミの腐敗

今年４月頃、元官房長官、野中広務氏がテレビ番組で官房機密費について暴露した。

官房長官時代１００万円単位でマスコミ記者や評論家、コメンテイター等に官房機密費を配っていたというのだ。

官房機密費は国の事業を円滑に遂行するために使用する経費で、領収書等残す必要はなく、会計検査院のチェックも入らない。実質、何に使おうが闇に隠された金だ。

時の官房長官の判断で支出され、ここ数年の規模は年間約二四億円という。

自民党政権下では国会対策やメディア対策のために幅広くバラまかれていたとの噂は絶えない。

野中氏は、名前は明かさなかったが、新聞の論説員、記者クラブの記者たち相当数の者に配ったという。しかし、真相については、東京新聞以外の大手メディアはこれまで沈黙したままだ。

この事実が明らかにされれば政界と報道界との「贈収賄」事件として、大疑獄事件に発展しかねない。連日、新聞やテレビに登場して何食わぬ顔して偉そうに解説している連中がこっそり官房機密費を受け取っていたとすると許せるものではない。当然、不労所得としての税金も納めていないはずだ。

本来、権力をチェックするはずのジャーナリズムが、権力と癒着して官房費を受け取っていたとすると極めて重大な問題で、全ての報道関係者は率先して事実の解明に当たるべきである。

『週刊金曜日』配信のWebニュース記事に、NHK「日曜討論」の司会役をしていた解説委員室、影山日出夫氏が8月12日、局内で自殺した記事が出ていた。NHKは公式には、ノイローゼによるとしているが、局内のトイレで首を吊って自殺したのだ。

その背景にあるものは何か。職員の間では、彼が官房機密費を受け取っていたのではないか、と噂されているという。影山氏の「日曜討論」での司会ぶりが、2年前頃から自民党側に酷く偏っていたというのだ。

NHK解説委員の自殺！

受け取った金は、局上層部に〝上納〟していたらしい。ところが政権交代により真相の発覚を恐れたNHK経営陣が、健康問題を理由として影山氏に退職を迫っていたのではと言う。〝最後の抵抗〟として、彼は局内で自殺を図ったとの推測だ。

このところの大手マスコミの偏向報道を見るにつけ、民主党代表選におけるマスコミのなりふり構わぬ、総力を挙げた〝小沢叩き〟の実態も、小沢氏に出てきてもらっては困るというサインかも知れない。

政治と金」の問題

これは小沢氏に突きつけられた大きな問題であるが、その中身が何であるかは詳しく報道されず、〝小沢はダーティーで金に汚い〟という印象だけが報道されている。

小沢氏にまつわる疑惑は、昨年3月、大久保秘書が政治献金を受けた団体名を正しく記載し報告したのに「虚偽記載」として逮捕されたこと。また、今年1月15日、元秘書で石川知裕衆院議員が政治資金収支報告書への記載漏で逮捕されたことだ。

石川氏逮捕のきっかけは、資金管理団体が04年10月に4億円相当の不動産取得をしながら、帳簿への記載が2ケ月遅れた問題だ。

これらについて今年、小沢氏が関わった証拠は無いとして不起訴が決定した。ところが、今年、4月27日、市民団体の申立てにより、検察審査会が起訴相当の結論を出した。

大久保秘書逮捕の問題は、西松建設から裏金を受け取ったに違いないとの憶測だが、1年以上にわたる捜査でもそれらの証拠は上がらなかった。秘書逮捕事件は、政治団体名の「誤記載」や帳簿への「記載遅れ」で、本来逮捕起訴するまでもないものだ。

また、検察審査会に申立てた市民団体とは「在日外国人の特権を許さない会（在特会）」といわれる右翼暴力団の代表で、その後、幹部4人が「朝鮮学校襲撃」で逮捕されている。

本来、検察審査会への「審査申し込み」は告訴・告発人の資格で出来るもので、資格の無い「市民団体」に対し「検察審査会」事務局が拡大解釈したため受理されたものである。

これらの事実関係は、大手マスコミには全く報道されていない。

三島市における高齢者世帯の生活支援は？

先日、75歳を超えると思われる老婆が、右手に大きな買い物袋を抱え、杖をつきながら歩いていた。足が痛むのか、少し歩いては休み、少し歩いては休みして、家路を急いでいた。

今、三島市郊外の団地は急速に高齢化している。開発され、築30年前後の団地では、子供が自立し出て行った後、老夫婦が取り残されている世帯が増えている。身近にあった小売店は消え、食料や、日常品の買い物一つも、街の中や遠くのスーパーに出かけなければならない。

いよいよ動けなくなれば介護保険のお世話になることも出来るが、まだそこまでは行かないが、店は遠くて、車も無いし、バスも通らない地に住む高齢者にとっては孤島に暮らしているのも同然となる。

現在、三島市で実施している高齢者への支援策は、

☆高齢者バス利用助成＝70歳以上の人で、市内を運行する全ての路線バスで使用できる１００円分のバス助成券を30枚配布

☆寝具類のクリーニング費用助成＝75歳以上の高齢者世帯で要介護3以上年2回、４５００円上限クリーニング費用の９割助成

☆介護認定を受けた単身高齢者で安否確認を伴う図書館図書の借用・返却の代行、廃棄図書回収

☆地域包括支援センターでの生活相談事業などがある。

介護保険外の高齢者福祉サービス事業として、

◎緊急通報システム＝電話機と連動したボタンを押すと消防署に通報できる、高齢者非課税世帯だけ、電話代自己負担

◎理美容サービス＝理美容院に行けない高齢者に自宅訪問、年4回まで、代金自己負担

◎短期生活援助＝一時的なヘルパーを派遣、1時間２５０円、月4回まで

◎自立者ショートステイ＝一時的に特別養護老人ホームでの生活、1日４５０円、食事、送迎代（片道）１８４０円自己負担

◎家庭ゴミ回収＝無料

◎給食サービス＝３５０円の昼食を自宅に配達、安否確認などだ。

しかし、交通機関の不便な居住地の人からは、買い物、通院等で使えるタクシー券を望む声も多い。

また、独居老人・高齢者世帯の孤立化を防ぐ、ボランティアや地域での助け合い組織も必要になる。

地域住民の横のつながりを広める自主的活動をどのように作り出すがか課題だ。

有象無象

▼障害者団体対象の郵便割引制度を悪用した「凛の会」事件。09年、事件に関与したとして厚労省の女性キャリア村木厚子氏が逮捕された。6月29日、大阪地裁で被告の最終弁論が開かれ、弁護側は無実を主張した。

▼村木被告の関与を認めた元部下らの供述調書の大半が証拠としての採用を却下されており、9月10日に言い渡される村木被告の判決は無罪の可能性が濃厚と見られる。

▼公判では特捜部の捜査の悪質さ、杜撰さが次々と明らかになった。なかでも、特捜部が事件の鍵を握る石井一・民主党議員の事情聴取をせずに村木元局長を起訴していたという事実だ。

▼検察側のストーリーは、自称障害者団体「凛の会」元会長が、石井議員に厚労省への働きかけを依頼した。石井議員は厚労省の担当部長に電話し、部長が村木課長に便宜を図るよう指示たというもの。当然、石井議員への依頼の有無が重要ポイントとなる。

▼結局、公判では議員への依頼がなかったことがわかり、検察側主張はドミノ倒しで崩れ去った。検事たちは事件の真相追求より、予め想定した筋書きに合う調書を取る事だけであった。

▼検事たちは逮捕の脅しや早期保釈の利益誘導で、事実と全く異なる調書に次々とサインさせた。ウソも上塗りすれば本当の様に見えてくる。同じような特捜部の捜査でどれだけ多くの人が冤罪の被害を受けてきたことか。検察官僚の体質は既にずっと前から地に落ちている。

陶
ちゃわんや
新・古美術
炉端庵 青木武士
TEL:055-972-4213
携帯 080-6960-5200

シザーカット専門店
びようしつ　みゆき
営業時間：9:00~18:00
定休日：水・第三日曜日
〒411-0833
三島市中123−12
TEL：055−972−6808

フリー・マーケット
毎月 第1、第3土曜日
10:00~15:00頃まで
新鮮野菜、干物、衣類…etc
低価格で提供、価格応談
徳倉2丁目2−30
連絡先：988−1651

住宅リフォーム、塗装、屋根工事
有限会社ニッセイ住建
会社代表　李 正浩
〒411-0020 三島市旭ヶ丘11−18
Tel&Fax 055-973-7440
携　帯 090-6072-7811
低価格、丁寧な説明、信頼できる仕事内容、納得できるアフターケア。

軽食&喫茶（11:30~14:30）
スナック（18:00~23:00）
レインボー
三島田町駅前
（昼）定食８００円、珈琲付き
レインボーカレー７００円
焼きそば５００円
トースト・サラダ・珈琲６００円
電話：055-972-0005

ピアノ、ソルフェージュ
訪問レッスンいたします。
TEL 055-977-5362 気軽に連絡してください
角田洋子

内閣府「地域社会雇用創造事業」

グランドワーク三島に10億円の助成

昨年12月、民主党政権は、厳しい経済・雇用、景気回復めざす一環として、地方の活力の回復、環境を中心とした未来に向けた政策の実現に取り組むため「明日の安心と成長のための緊急経済対策」を取りまとめた。

その中で、雇用について、介護、医療、農林、環境・エネルギー、情報通信観光、地域社会雇用等の分野における新たな雇用機会の創出、地域ニーズに応じた人材育成を推進するとしている。

とりわけ「地域社会雇用創造事業の創設」では、(ア)社会起業インキュベーション事業(イ)社会的企業人材創出・インターンシップ事業を上げ、社会的な事業と雇用を創造するという。

具体的には、内閣府より公募（平成22年2月1日～2月19日）を行い、外部有識者で構成した選定・評価委員会において、最終的に全国12の事業主体（NPO等の民間事業者、地方自治体、複数事業者）が採択され、事業主体に、平成23年度までの2年間に、総額70億円を助成することになった。

「NPOグランドワーク三島」は全国12の事業体の一つに選ばれ、10億円の補助金を受けることになった。

同会のホームページでは「グラウンドワーク三島は、市民・NPO・行政・企業とのパートナーシップによる多様な環境まちづくり活動を通じて、実践的な環境教育、環境再生、地域再生、農業再生、コミュニティビジネスなどの現場モデルを創りあげてきた。今回、これらの現場モデルを全国へ普及、発展させるために、内閣府による地域社会雇用創造事業の一環としてこの事業を行うことになった。」との説明だ。

具体的には、全国から研修生を募集し、三島現地でグランドワーク三島が手がけた事業等を5日間集合研修する。その後、それぞれ地域の団体等で5日間実務研修を行う。研修生はビジネスプランのレポートを作成し、地域で起業家を目指すというもの。

優秀なプランには起業支援金が支給される。専門家による個別指導、インターネットを活用したQ&A等、サポート体制が用意されているという。

一定の基準を満たした研修生には、『活動支援金』14万円が支給され、実地研修を受け入れる団体には、「研修生受入金」4万円が提供される。

受入研修生は10月までの第I期が400人。第II期12月～2月までが800人、計1200人の予定。II期募集締め切りは11月15日まで。

応募資格は、環境、まちづくり、農山村振興、中間支援NPOなどの分野で、大学生、未就業者、NPO・ボランティア団体関係者、地域ブランドを生かして、小さなビジネスを起こしたい者等。

グランドワーク三島は「右手にスコップ、左手に缶ビール」を合言葉に、20年間、地域で地道な活動を積み重ねてきた。政府は「無駄な公共事業」を排し、未来に向けた新たな起業家育成のための助成事業という。しかし、NPOに限らず全国には環境保全や荒れた森林の間伐作業に取り組む小団体も多い。募集の仕方、助成金のばら撒き方に不公平感は否めない。

日大三島校舎での説明会

文芸春秋

今年も「平和のための戦争展」へ

子育て主婦

「平和のための戦争展」に子供たちを連れて行くようになって今年で3回目。戦争を体験していない私が子供たちに戦争の悲惨さを伝えるには、限界がある。戦争反対・という言葉の説得力にも欠ける気がする。この戦争展は、そんな私の代わりに、生の戦争というものを子供たちに教えてくれる。もちろん私にも。

中学生になった息子は、この戦争展を見て、夏休みの作文のテーマを日韓併合にした。そして最初は怖がって、私にしがみついて離れなかった娘も5年生になり、戦争や平和について彼女なりに真剣に考えられるようになった。今回はその娘が書いた感想を紹介したい。

『おりづるの旅』は、悲しい人やつらい人の気持ちがよくわかる本でした。

『はだしのゲン』は、あまり見たくない絵やつらい絵などあったけれども、かわいそうな子の気持ちを考えて、がんばって読みました。勉強になりました。

今、「日本を海外で戦争ができる国にしよう」という動きが強まることが予想されています。人人の人で、そう思う人がいるかもしれないけれど、それは間違っていると思います。原ばくや戦争は、もう起こってほしくない人が人ぜいいます。わたしも、その人たちの万人。原爆が落とされた県に生まれていないけれど、ひばくしゃの人たちがかわいそうだと思うからです。子ども・友達・お父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃんをなくした人が大ぜいいるから、「日本を海外で戦争できる国にしよう」という考えは、絶対してはいけないと思います。国の人たちに、もう一度このことを見直してほしいと思います。

わたしは戦争をやめてほしいと思います。なぜならば、家族がなくなると、なくなった子の家族が悲しむからです。

戦争展には、戦争の本や絵本がたくさんありました

原発はいらない⑳ わたしたちの生活と電磁波

携帯電話編）

みしま原発を学ぶ会

前回取り上げた電子レンジと共に、電磁波エネルギーの強いものが携帯電話です。電磁波にはいろいろな種類がありますが、電子レンジと携帯電話は同じマイクロ波を使用しています。

そのため、本体を頭に近づけて使用する携帯電話は、脳や眼を電子レンジで加熱するようなものだという意見や、脳腫瘍や白血病になり易くなるのではないかという意見があります。

私の家には固定電話が無く、携帯電話だけを使っています。たまに長電話になってしまい、三十分以上話すと、通話後に、耳の辺りに違和感を感じるのです。耳の痛みと、少しの頭痛。その時、携帯電話はかなり熱くなっています。この熱が脳を温めているのかと思うとゾッとします。

最近は子供も携帯電話を持っていますが、子供の脳は小さく骨も柔らかいため、大人よりも電磁波の影響を受けやすいのです。

イギリスでは十六歳以下の携帯電話の使用を控えるように指導しています。

なんとか電磁波の害を減らせないものかと考え、長電話になりそうな時にイヤホンマイクを使ってみってみたところ、通話後の頭痛がなくなりました。（イヤホンマイクについては、電磁波の影響の軽減に有効だという意見と、イヤホンのコードがアンテナの役割をしてしまうため、電磁波強度が強くなるという意見があります。）ハンズフリー機能がある携帯電話の場合は、携帯を離して通話すると良いでしょう。携帯電話で長電話しないという事が一番かもしれませんが。

長電話をしない方も、発着信時に一番強い電磁波が出るので、その時だけでも携帯電話を体から離すといいそうです。携帯電話を目覚まし代わりに使っている方も、頭の近くには置かないで、離れた所に置いたほうが良いでしょう。

新しく携帯電話を買うときには、電磁波強度の少ないものを選ぶことができます。「ケータイ電磁波レポート」というホームページに機種別のSAR値一覧表があります。（SAR値：生体組織が一定時間、一定質量エネルギーを吸収した値のこと。人体が、一定時間にどのくらい電磁波を受けたのかがわかる。）携帯電話の機能やデザインだけでなく、電磁波の少ないものを選ぶという　人が増えれば、携帯電話会社も電磁波の少ないものをたくさん作ってくれるでしょう。スウェーデンやドイツの電磁波の制限値は、日本の1／2以下になっています。それだけ消費者の関心が高いということです。

《参考》
荻野晃也著「あなたを脅かす電磁波」

ある野戦重砲兵の物語（13）

秋元実

当時、イギリスに隷属する植民地だったビルマは、面積は六十七万平方キロで、現在の日本の二倍近くありながら、人口は三分の一で原野が多く、なにやら、寂しい国でありました。

昭和十七年六月、三島の中部第十部隊から転属になり、十名の仲間と野戦重砲兵第三連隊の第二大隊を追及して、ビルマ北部の高原都市ラジオまできたわたしは、出迎えの古兵たちの操縦するトラックで、その広漠の高原をひた走り、四日かかて、目指す部隊のいる中国雲南省拉孟（ラモー）の村落に到着したのですが、その周辺には、ヒマラヤに続く険しい山々が連なり、まさに「地の果て」という感じの、荒涼たる辺境でありました。　わたしと渡辺の配属された第六中隊は、中国名で「怒江」と呼ばれるサルウイン河の対岸の中国軍と向かい会い、十五榴四門を並べながら、岸辺の台地に駐屯しておりました。

初期ビルマ作戦を終えて国境の北に駐留する、こうした野戦部隊の兵舎はわびしい掘建て小屋で、一つ星の新兵の二人は、以来、この仮住まいを起点として、百四十名の歴戦の古兵だちと、ビルマとティモール島で、寝食を共にすることになるのでした。

昭和十七年七月、撤退の命令がきて、第二大隊の五個中隊七百名は、この北方最前線の中国領拉孟から、車輛と火砲を連ねて、不自由な野宿を重ねながら四百キロの公路を走り、ビルマ中部の高原都市メイミョウに帰還したのです。

野戦に動員された軍隊は、一発も撃つことなく、何日も行軍や移動を続けることがあります。わたしは、ビルマでも雲南でも、そしてティモール島を含む小スンダ列島でも、何百キロに及ぶ長距離の旅を、何度か経験しました。

これも、異郷の戦争であり、若い兵隊のわたしは、その旅で、各種に異邦人に出会い、珍しい外国の風物を見て、年老いても忘れぬ、たくさんの経験と感動を、与えられたのでありました。

（つづく）

―八月が逝く―

あやまたず歴史は糾せよ朝鮮の"併合""改名"このくにの年図

地平線の向うに見えきし核廃絶風よしずかにこの夏を吹け

漂うてしづもる近江に還りしか八月の真夜河野さん逝く

けぶるごとき乳房よと詠うもあり体に持つ水の器つねに満ちて

―河野裕子さん＝「たっぷりと真水を抱きてしづもれる吾ら愛を近江といえり」など、みずみずしい感性で詠った詩人です。―

浅野和子

みしま 源氏物語を読む会

と　き：毎月第1・3月曜日（月2回）
午前10時15分～11時45分
ところ：三島商工会議所・会議室
内　容：『源氏物語』　使用テキスト・角川文庫
会　費：月2000円　（テキスト資料代・講師料等含む）
※使用テキスト等は会で用意します。

問い合わせ：『源氏物語を読む会』055-972-4953

―政府・電力会社の「必要論」を切る―

講演：「プルサーマルは、なぜやってはいけないのか」
講師：岩井孝さん
日本原子力研究開発機構労働組合中央執行委員長
日時：9月11日（土）14時～16時　200円
場所：清水町地域交流センター　2F
主催：浜岡原発の危険に反対する東静の会準備会
（三島共立病院　西山さん・小高さん　973-0882）

「飯塚事件を考える　～　DNA冤罪？もう一つの足利事件徳田弁護士講演会」

日時　2010年9月11日（土）　18：30～20：30
場所　沼津労政会館　第1会議室　沼津市高島本町1-3
ＪＲ沼津駅徒歩10分（東部総合庁舎北側）
参加費：500円　主催：アムネスティ静岡グループ
お問合せ　さかもと
TEL．0547-59-4810（17：30～22：30）
Email：kv7h-skmt@asahi-net.or.jp
まき　携帯電話　090-7039-4505

三島児童文学を語る会　373回

9月例会のお知らせ

日時：9月25日（土）
13時30分～16時30分
場所：本町タワー4F　第3会議室
テキスト松谷みよ子著
「屋根裏部屋の秘密」

日本の加害「七三一部隊」のことを書かれたこの本について、8月23日（月）13時25分から約10分ラジオFM（ボイス・キュウ）にて、混声合唱「悪魔の飽食」を歌った会員の良知勝平さんが紹介してくださいました。9月例会でそのときの録音を聞きます。

今こそ「読み聞かせ」が大事！
事務局　小嶋利信　堀川尚子　山口当子
連絡先　三島市中央町8－8
TEL　971-3348（山口）

伊豆市民劇場　第324回例会

民芸公演 林の中のナポリ

日時：2010年　9月23日（木）
会場：三島市民文化会館

作／山田太一
演　出／丹野郁弓
出　演／樫山文枝
伊藤孝雄
日色ともゑ

はじまりは雪の夜、冬のペンションを一人の老婦人が訪れます。誰にでも訪れる老い一静かだが終わりではない"人生の冬"の物語。温かな山田太一の世界を丹野演出がさわやかに描きます。
【会費】入会金2000円、月会費3000円
【問合せ】三島市大宮町1-4-30欅ビル101
【電話】975-5455　【FAX】981-3422